

学校通信 令和5年 3月13日 No. 19

# 鼓ヶ浦 (つづみがうら)

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

TEL:386-5852 FAX:386-4663

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhtsudumigaura/>

## めざす学校像

「来てよかった、  
明日も来たい」  
と思う学校

## 令和4年度 第45回 卒業証書授与式

3月7日(火)、春らしい暖かで穏やかな天候に恵まれ、令和4年度、第45回卒業証書授与式を行いました。鈴鹿市教育委員会より、松嶋康博(まつしま やすひろ)様、鈴鹿市議会議員、山口善之(やまぐち よしゆき)様をはじめ4名の来賓の皆様と保護者の皆様、職員一同、在校生の代表生徒で卒業生の門出をお祝いしました。

振り返れば、卒業生は入学後すぐの長期休校に始まり、3年間コロナ禍で中学校生活を過ごしてきました。多くの学校行事や学習活動が中止や縮小となり、生徒たちが受けた影響はあまりにも大きかったと思います。そのような中で、様々なことに前向きに取り組み、最上級生としてのあるべき姿を1・2年生に示し、本校の伝統を立派に伝えてくれた卒業生にあらためて感謝したいと思います。

卒業生がこれから向かう未来社会は、AIをはじめ急速な技術革新が進み、激しく加速度的に変化しています。そのような厳しい時代を生きる卒業生たちですが、鼓ヶ浦中学校での3年間の学びが、必ず生きて働く力になると信じています。「聴き合う関係」を授業の核とする本校の教育は、自ら得た知識や情報から、何が重要かを判断し、活用して課題を解決する力をつけると同時に、学びをあきらめず、自分を大切に、他者を受け入れ寄り添うことが出来る人間を育てると確信しているからです。卒業生には、そのことを忘れず、勇気をもってそれぞれの次なるステージに飛び込んでほしいと思います。

卒業生がこの学校で流した涙や汗、元気いっぱいの声、勇気を与えてくれた笑顔、それら全てが鼓ヶ浦中学校の財産であり、私たちの宝物です。どうかいつまでも強く、そして優しい心を持ち続け、元気に活躍してくれることを願っています。

(校長式辞より要約)

## 大津波避難訓練 ～天災は忘れたころにやってくる～

3月10日(金)大地震からの大津波に対する避難訓練を実施しました。

教室からグラウンドへの避難に続き、本校から約4kmほど離れた稲生小学校まで1・2年生全員が徒歩で避難をしました。当日は気温が上がり、暑い中での訓練となりましたが、整然とした隊列を崩すことなく、全員が約40分で避難を完了しました。

翌日の3月11日(土)には、誰もが驚いたあの東日本大震災から12年を迎えました。震災当時は、我が家の避難対策は十分か、保存食は準備されているか、など確認されたご

家庭も多かったのではないのでしょうか。しかし、年月が経ち、大地震に対する危機感の薄れは認めざるを得ません。「天災は忘れたところにやってくる」、寺田寅彦の警句をもう一度思い起こして、私たちは、非常災害に対する準備を怠りなく行っていきたいと思います。

- ① 家族がバラバラになったとき、落ち合う場所や連絡方法を決めておく。
- ② ラジオや懐中電灯などが入った非常災害用リュックや防災頭巾を準備しておく。
- ③ まずは自助。自分の命は自分で守るという覚悟を持つ。

いつ、どこで災害に遭うかわかりません。学校・家庭・地域が協力して生徒の安全管理を行っていくことが大切です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

## 一年間を振り返って ～進級の意味～

保護者の皆様には、一年間本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。今年度も残りわずかとなりましたが、この一年の学習のまとめを行い、新しい学年につながる充実した期間にしたいと考えています。

さて、この一年間のお子さんの成長ぶりはいかがだったでしょうか。身長や体重のように目に見える成長だけでなく、一年前の4月を思い起こすと、出来るようになったことがたくさんあることに気づくと思います。

新しい学年を迎えるこの時期は、学校としても一人ひとりの生徒の成長を見つめるとても大切な時期です。この一年での生徒一人ひとりの成長を確かめ、進級を機に次へのさらなる成長へとつなげていきたいと思っています。

子育てはいろいろと難しいことも多くありますが、親として我が子が将来どのような大人になってほしいのか、きちんと持つことがとても大切だと思います。その上に立って、今、子どもに求めるものは何なのかを考えていくことが良いのではないのでしょうか。

一年が終了した今月末に、お子さんとこの一年を振り返ってみてください。私たち教師集団も一人ひとりの生徒にあった指導を常に模索しています。保護者の皆様や地域の方々と一緒に考え、共に生徒たちの成長の喜びを感じ、一人ひとりに合った教育をより一層進めていきたいと考えています。